

第 3 期中期目標（案） 変更内容比較表

【修正前】（第 29 回評価委員会提出時）	【修正後】
目次	
<p>1. <u>前文</u></p> <p>2. 中期目標の期間</p> <p>3. 設置する教育機関の目標</p> <p>神戸市外国語大学に関する目標（略）</p> <p>神戸市立工業高等専門学校に関する目標（略）</p> <p>4. <u>業務運営の改善及び効率化に関する事項</u></p> <p>（1）自律的・効率的な法人運営</p> <p>（2）適正な人事・組織</p> <p>5. <u>財務内容の改善に関する事項</u></p> <p>6. <u>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する事項</u></p> <p>（1）自己点検及び評価の適切な実施</p> <p>（1）データの蓄積・活用と情報の公表</p> <p>7. <u>大学と高専の連携に関する事項</u></p> <p>8. その他業務運営に関する重要事項</p> <p>（1）施設設備の整備等</p> <p>（2）安全・危機管理</p> <p>（3）法令遵守等</p> <p>附則</p>	<p>1. <u>神戸市公立大学法人の基本的な目標</u></p> <p>2. 中期目標の期間</p> <p>3. 設置する教育機関の目標</p> <p>神戸市外国語大学に関する目標（略）</p> <p>神戸市立工業高等専門学校に関する目標（略）</p> <p>4. <u>大学と高専の連携に関する事項</u></p> <p>5. <u>業務運営の改善及び効率化に関する事項</u></p> <p>（1）自律的・効率的な法人運営</p> <p>（2）適正な人事・組織</p> <p>6. <u>財務内容の改善に関する事項</u></p> <p>7. <u>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する事項</u></p> <p>（1）自己点検及び評価の適切な実施</p> <p>（2）データの蓄積・活用と情報の公表</p> <p>8. その他業務運営に関する重要事項</p> <p>（1）施設設備の整備等</p> <p>（2）安全・危機管理</p> <p>（3）法令遵守等</p> <p>附則</p>

<p>1. 前文</p>	<p>1. 神戸市公立大学法人の基本的な目標</p>
<p><u>グローバル化や科学技術の進歩等、高等教育を取り巻く社会情勢が大きく変容する中、今後も変化し続ける国際社会で活躍できる人材の育成及び輩出を進めるとともに、教育研究の成果を社会に還元することにより、地域及び国際社会の産業や文化の発展向上に寄与することを目的として、公立大学法人〇〇（以下「法人」という。）を設立した。</u></p> <p><u>法人は、この目的を達成するため、神戸市外国語大学及び神戸市立工業高等専門学校</u>の二つの高等教育機関を設置し、管理運営する。</p> <p>神戸市外国語大学は、創立以来 70 年以上に渡りきめ細かい教育によって世界と神戸を結ぶ優秀な人材の育成に取り組み、また、神戸市立工業高等専門学校は、創立以来約 60 年に渡り、ものづくり・まちづくりの現場で中核的な役割を果たす技術者の育成に取り組み、ともに多数の優秀な卒業生を継続的に送り出してきた。</p> <p><u>しかしながら、変化し続ける社会にあっても優秀な若者が活躍するためには、高等教育機関が多様化するニーズや社会の要請に応えていく必要があります、それぞれの個性や特色を發揮し、魅力向上に取り組むとともに、大学、高等専門学校、自治体、産業界が連携をより強固なものにすることが求められている。</u></p>	<p>神戸市外国語大学（以下「大学」という。）は、創立以来 70 年以上に渡りきめ細かい教育によって世界と神戸を結ぶ優秀な人材の育成に取り組み、また、神戸市立工業高等専門学校（以下「高専」という。）は、創立以来約 60 年に渡りものづくり・まちづくりの現場で中核的な役割を果たす技術者の育成に取り組み、ともに多数の優秀な卒業生を継続的に送り出してきた。</p> <p><u>一方で、若年人口の減少、デジタル化を含む新たな技術革新及びグローバル化の進展等、変化し続ける社会にあって、高等教育機関は優秀な人材の育成に加え、さらなるイノベーションの創出、文理融合、地域への貢献、産学官の連携等によって、地域において多様化する社会ニーズに応えていく必要がある。</u></p>

このような中、神戸市教育委員会が令和3年3月に設置した附属機関「神戸市立工業高等専門学校の今後のあり方検討委員会」の報告書の内容を踏まえて、神戸市立工業高等専門学校の教育研究の高度化やグローバル化、さらなる地域貢献の実現に向けた取組について議論・検討を進めた結果、神戸市において、国際社会で活躍できる人材の育成及び輩出をより自律的な運営体制において効果的に実現するため、令和5年4月から神戸市立工業高等専門学校と神戸市外国語大学を同一法人の下で運営することを令和4年2月に表明した。

神戸市公立大学法人（以下「法人」という。）は、大学及び高専がそれぞれの歴史の中で培ってきた教育、研究、社会貢献、産学官連携等の個性や特色を発展させながら、同一法人化のシナジー効果による魅力向上に取り組む。この文理融合による新たなステージにおいて、より迅速に社会の期待に応え、地域社会及び国際社会の持続可能な発展と、国内はもとより世界の高等教育及び学術研究の向上に寄与する。

新しい価値を創造し、時代に相応しい法人として、以下の基本的な目標を示す。

- （１） 変化し続ける国際社会で活躍できる豊かな人間性と創造性を備えた人材を育成する。
- （２） 大学及び高専の知の蓄積を融合させ、イノベーションを創出し、教育研究の成果を社会に還元する。
- （３） 産業界、教育機関、地域、行政等との連携により、地域貢献を進める。

<p>法人は、この中期目標に基づき、<u>大学及び高専のこれまでの取組を継承・発展させながら、同一法人下での運営によるガバナンスの強化やシナジー効果を発揮させ、</u>知の拠点としての大学及び高専の存在感を向上させるとともに、<u>地域及び国際社会の発展に寄与する。</u></p>	<p>法人は、<u>こうした基本的な目標を踏まえたこの中期目標に基づき、同一法人化のシナジー効果を発揮し、ガバナンスの強化や知の拠点としての大学及び高専の存在感を向上させるとともに、同一法人化によって異なる分野の高等教育機関を運営することによる新たな教育、研究等の枠組みを</u>探求していく。</p>
<p>2. 中期目標の期間（略）</p>	<p>2. 中期目標の期間（略）</p>
<p>3. 設置する教育機関の目標</p>	<p>3. 設置する教育機関の目標</p>
<p>神戸市外国語大学に関する目標</p> <p>Covid19によるパンデミックに直面した国際社会は、現在グローバル化の変容にさらされている。そこでは、貧困や分断、対立等、グローバル化がもたらす課題も顕在化しつつある。</p> <p>こうした世界情勢の中、<u>神戸市外国語大学</u>は、国際港湾都市である神戸の公立大学として、小規模な単科大学ならではのきめ細かい教育によって、国や地域、文化、価値観の違いを越えて多様な人々を結ぶことができる、真にグローバルに活躍できる<u>人材</u>の育成を目指す。</p> <p>その実現に向けて、<u>神戸市外国語大学</u>は、社会の要請に応じていくため、教育においては、時代に即応したプログラムを提供し、より高次元な外国語運用能力を備え、国際的な知識と柔軟な判断力を持ち、世界を舞台に活躍できる人材を輩出するとともに、研究においては、外国学の研究拠点として教員の活発な研究活動と学外・海外の研究者との学術交流を通して高度な学術研究を推進する。また、「世界の多様な人々を結ぶ神戸市外国語大学」を大学ブランドとし</p>	<p>神戸市外国語大学に関する目標</p> <p>Covid19によるパンデミックに直面した国際社会は、現在グローバル化の変容にさらされている。そこでは、貧困や分断、対立等、グローバル化がもたらす課題も顕在化しつつある。</p> <p>こうした世界情勢の中、<u>大学</u>は、国際港湾都市である神戸の公立大学として、小規模な単科大学ならではのきめ細かい教育によって、国や地域、文化、価値観の違いを越えて多様な人々を結ぶことができる、真にグローバルに活躍できる「<u>行動する国際人</u>」の育成を目指す。</p> <p>その実現に向けて、<u>大学</u>は、社会の要請に応じていくため、教育においては、時代に即応したプログラムを提供し、より高次元な外国語運用能力を備え、国際的な知識と柔軟な判断力を持ち、世界を舞台に活躍できる人材を輩出するとともに、研究においては、外国学の研究拠点として教員の活発な研究活動と学外・海外の研究者との学術交流を通して高度な学術研究を推進する。また、「世界の多様な人々を結ぶ神戸市外国語大学」を大学ブランドとして確立すること</p>

<p>て確立することで、大学の存在感を向上させ、国内・世界に戦略的に魅力を発信していく。</p> <p>第1～第4 (略)</p> <p>神戸市立工業高等専門学校に関する目標 (略)</p>	<p>で、大学の存在感を向上させ、国内・世界に戦略的に魅力を発信していく。</p> <p>第1～第4 (略)</p> <p>神戸市立工業高等専門学校に関する目標 (略)</p>
<p>4. 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>(略)</p>	<p>4. 大学と高専の連携に関する事項</p> <p>大学と高専は、教育・研究、地域貢献、情報発信等において、それぞれの強みを活かした<u>連携事業を積極的に展開すること</u>により、学生・教職員のさらなる多様性の獲得等、シナジー効果を創出する取組を進める。また、施設や設備の有効利用や、効率的・効果的な運営体制の構築による教育環境の向上を目指す。</p>
<p>5. 財務内容の改善に関する事項 (略)</p>	<p>5. 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (略)</p>
<p>6. 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する事項 (略)</p>	<p>6. 財務内容の改善に関する事項 (略)</p>
<p>7. 大学と高専の連携に関する事項</p> <p>大学と高専は、教育・研究、地域貢献、情報発信等において、それぞれの強みを活かした<u>連携</u>により、学生・教職員のさらなる多様性の獲得等、シナジー効果を<u>生み出す</u>取組を進める。また、施設や設備の有効利用や、効率的・効果的な運営体制の構築による教育環境の向上を目指す。</p>	<p>7. 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する事項</p> <p>(略)</p>
<p>8. その他業務運営に関する重要事項 (略)</p>	<p>8. その他業務運営に関する重要事項 (略)</p>